



小田小だより

平成28年1月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel.045(775)3011
<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/> 横浜市立小田小学校

「家族」の原風景 ～年の始めに思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

保護者の皆様、地域の皆様、明けましておめでとうございます。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

不思議なもので、年が改まると、身も心も引き締まる思いがいたします。年頭に当たり、昨年を振り返りつつ、本年への思いや願いについて考えてみました。

去年は、心を痛めた「児童虐待・家族受難」の事件がたくさん起きました。家族がどうなってもいいと思って自宅に放火した事案。幼子に何も食べさせないで放置したという虐待事案。老々介護に疲れた夫婦の悲惨な事案など……。

これらのニュースにふれたとき、家族の絆が切れ、家庭が機能不全に陥ってしまっているのではないかと感じたのは、私だけではないでしょう。

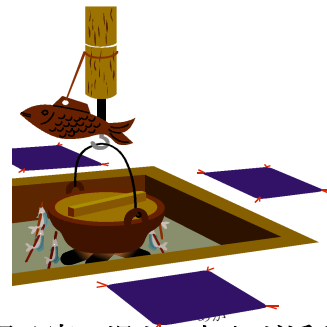
社会という名の大樹を構成しているのは、家族です。今、家族という細胞が壊れ始めているように感じてならないのです。一つの細胞が大きく豊かになってこそ、大樹も枝を伸ばし葉を広げていくのですが、このままでは大樹である社会も壊れかねません。昔ほどの家庭にもあった温もりが、急速に失われつつあるように思えてならないのです。今だからこそ日本の古き良き「家族」という原風景を取り戻す努力をすべきではないでしょうか。

大晦日の夜、私のふるさと山形の山村に音もなく降り積もっているであろう雪を思いながら、詩人・三好達治の「雪」という詩の一節を口ずさみました。

「太郎を眠らせ
太郎の屋根に
雪ふりつむ
次郎を眠らせ
次郎の屋根に
雪ふりつむ……」

この詩を静かに繰り返し繰り返し口ずさむとき、日本の家族が本来もっていた「よき家庭、よき家族」の姿が彷彿（ほうふつ）としてきます……。

頭の中に、雪が降り積もる雪深い山里が現れ、太郎と次郎の眠る家の温かい灯りが浮かんできます。傍らには、針仕事に精を出す母親が寄り添っているのでしょうか……時間とともに安心しきった太郎と次郎の眠りはますます深くなっていきます。そして、太郎、次郎、三郎、四郎……と無限に続く日本の子どもたちの健やかな眠りが余白を埋めていきます。この詩には、日本の家族の原風景があります。私たちが決して失ってはいけない家族の姿です。



幸い、小田小学校には、「家族が大好き」という子どもたちばかりです。子どもたちが安心して過ごせる家庭や温かい絆で結ばれた家族にあふれているからなのでしょう。うれしい限りです。今年こそ、心が痛む事件が減り、温もりにあふれた家庭が、日本津々浦々まで広がりますようにと、心から祈らずにはられません。

そして、本校も、保護者の皆様方、地域の皆様方と手を携えて、子どもたちが安心して過ごせる学校づくりを推し進めてまいります。昨年同様、本校の教育活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。